

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(有)みやび会 グループホームいなほ
(ユニット名)	1番館
所在地 (県・市町村名)	長崎県平戸市生月町山田免1074-1
記入者名 (管理者)	塚本 吉弘 (田淵香世子)
記入日	平成 20年 6月 17日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の立場を考えた運営理念を作成し、ホールに掲示している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を毎朝の朝礼時に職員全員で唱和し、介護理念もホール内に掲示して、利用者の介護計画や日々の介護目標に取り入れている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や公的な場所などに毎月通信を配布して、ホームの活動内容や存在を理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	いなほ通信などでホームの日常生活の状態を知らせて、気軽に立ち寄ってもらうようにしている。施設周辺は田畑に囲まれており、畑仕事をしている方と気軽に会話をしたり、デイサービス利用者や近隣の農家の方から花や野菜などを頂いている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われている行事、催し物の見学に出かけたり、地元でボランティア活動をしている団体に訪問してもらい交流する機会を作っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のニーズに応えられるように、事業所の増設を検討したり、地域の方から職員に対する評判が良いので、現状を維持できるように会議などで話している		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を会議で説明し、質を向上するために改善点があれば職員全員で話し合いをして改善に取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度行い、サービスの実際や入所申し込み者、活動の報告を行い、特にサービス向上に向けた意見があれば全体会議の中で議題として話している		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出かけて行き、介護に関する意見や情報を聞き入れている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の研修などに参加した際に講義を受けている。現状では必要とする利用者はなく、必ず家族または身内の方と相談をして利用者の権利を守れるようにしている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビや新聞の情報、県からの通達などを各会議で話し合い、虐待防止に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ前には、必ず当事業所へ出てきてもらい、雰囲気や環境を目で見て、感じてもらいながら説明を行い、疑問、質問、意見などを伺うようにして、納得の下に契約を結んでいる</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言動や行動から嫌がる事、好む事などを探ったり、意見や不満、普段しない行動があった場合には、ユニット会議時に話し合いをしてケアに取り入れている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、いなほ通信を家族に配布している。病院受診の結果や主治医からの意見は確実に家族へ報告し、金銭管理についても現金出納帳を作成し、事務所預かり残金の確認など家族がホームに来た時にサインをもらっている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会や電話での連絡などで細かく近況を報告し、その際に家族の意見があれば個人記録や苦情相談に記録して全職員が閲覧できるようにしている</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回のユニット会議と会社職員の全体会議を行っているほか、職員は個人の気づきノートを持っており、個人的な意見や業務の気づきなどをメモして、運営者へ毎月提出して意見をもらっている</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>全職員の勤務希望を聞き入れて勤務表を作成し、急な変更、緊急時にも勤務調整が出来る環境を整えている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職に関しては最小限に抑えるようにしており、職員の危機管理能力の向上、慣れの防止、全入所者の把握を兼ねて職員の異動を考えるようにしている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員には、介護福祉士の取得を目標にして勤務してもらうように話し、介護福祉士取得に必要な情報を提供して、全職員の取得を願っている。外部研修への参加も全体会議の時に報告して、研修や講演会に参加した職員は全体会議の時に発表している	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にあるグループホームの管理者と連絡を取り、その都度現状の活動内容の報告や交流を図っている。同業者が集まる研修や講演会などにも参加し、ネットワークづくりや情報交換等を行っている	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場対抗バレー大会に参加したり、言いにくい事があれば個人のノートに思いを書いて、運営者に伝えている。また、親睦会などを開いて気兼ねなく話せる機会を作っている	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務体制など、職員の希望を聞いて働きやすい環境を作ってもらっている。朝礼時には1日の目標を発表し、目標への反省や感想をノートに書くようにしている	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	フェイスシートを活用して、本人の希望や想いを確認し、じっくりと話を聞くように心がけている	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	フェイスシートを活用して、家族の希望、要望を確認し、電話での連絡や面会時にはゆっくりと話す機会を作っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容にもよるが、職員で話し合い対応できる物は状況に合わせて支援をして、職員だけで対応が困難な場合は、運営者も含めて全体会議などで話し合いをしてニーズに対応するように努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少しでも早く馴染んで頂けるように、コミュニケーションをとり解けこみやすい雰囲気作りを心がけ、出来るだけ自宅で使っていたなじみに物を持ってきてもらうようにしている。また、初期段階では利用者に関わってきた方々に面会に来てもらい、職員と利用者のパイプ役、ストレスのはげ口になってもらうように説明をして納得してもらっている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地元の昔からの習慣や風習を教えてもらっている。昔話や歌を教えてもらったり、調理の下準備や食器拭きなど、会話をしながら一緒にしています。人生の先輩と言う意識を持って接するようにしている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時などに、ドライブや買い物などに出かけたときの話をしたり、日々の生活の中で怒った事や笑った事などを報告している。また、年1回は家族交流会を開催し、利用者、家族、職員との交流の機会を作っている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	フェイスシートを作成する時に本人と家族と話を聞きだし、お互いがどのような関係だったのかを察知して、どの程度家族が協力出来るのかを全職員で確認して、状況に合わせて連絡を取るようにしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのものは持ってきてもらうように説明を行い、なじみの人には職員と利用者をつなげるパイプ役になってもらうように説明している。自由に面会・外出・外泊ができるようにしており、なじみの人や場所で時間を過ごせる機会を作っている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホールにて利用者同士会話をしたり、起床時には利用者同士で起きるように声掛けをもらっている。孤立しそうな利用者がいたとしても、職員が間に入り、職員も一緒になって利用者同士が会話できる状況を作るように心がけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された利用者やその家族とは、どこかで出会った時など声を掛けて最近の様子を聞いたり、ホームの近況を話したりと継続的な付き合いを心がけている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートを活用して利用者の思いや希望、意向などを聞き記録したり、意思の伝達が難しい方は、いつのどの瞬間が落ち着いた生活、笑顔で過ごせる時間なのかなど、その利用者が表すサインを把握してユニット会議で話し合っている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者それぞれに担当の職員を決め、個人の情報を収集し、その情報を月1回のユニット会議にて職員間で情報交換し、全職員が共通の理解を得られるように努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方など、個人記録にまとめて日々の心身状態なども把握できるようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議に担当者が作成したフェイスシートを基に介護計画をたて、その後に家族にも介護計画を見ながら説明を行い、意見を聞いたり同意を得ている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的モニタリングを行い、その都度状態に応じてユニットの職員、運営者を交えて計画を作成している。状態が急変した利用者はその都度計画を作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の行動や言動の変化など気づいた事は個別の生活記録や業務日誌、申し送りノートを活用し、情報の共有と介護計画の見直しに役立てている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を尊重して、いつでも外出や外泊が出来る環境作り、地域での行事や四季折々の草花の見学、また飲食店での食事をするなど、季節、体調、状況に応じて支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署員の定期的な査察や避難訓練の立会い、婦人会の方や地域のボランティア団体に訪問してもらい、女性利用者にお化粧をするビューティーサロンや全利用者の美容ボランティア、小中学生の職場体験やボランティアの受け入れなどを行っている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	美容ボランティアなどによるヘアカットや婦人会の訪問によるお化粧(ビューティーサロン)、漁協からの魚の差し入れ、絵本などの読み聞かせなど地域のボランティア団体を有効に活用している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、要支援者の利用者がいないため、包括を活用する事は無いが、高齢者福祉・介護に関する情報や研修・講演会の案内などメールを活用して連絡を取り合っている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する病院、ドクターの診察が受けられるように病院と連絡を取り合ったり、本人の身体状況に合った病院を紹介するなどして適切な医療を受けられるように心がけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月、定期的にかかりつけ医の診察を受け、最近の認知症による行動や薬の影響など細かい相談や報告を行い、かかりつけ医の指示の基に認知症の進行や健康の管理が出来るように心がけている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	病院の看護師には利用者の少しの変化でもすぐに相談できる環境にあり、またホームの看護師にも気軽に相談をしながら健康管理に心掛けている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、必要に応じて情報提供書を作成してホームでの今までの生活状況を説明したり、環境の変化による認知症の悪化を防止するように家族へ相談して早期に退院できるような関係を心がけている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時には、身体状況が重度化したり、24時間の医療が必要な状況など専門的な医療や治療が必要な状態になるときは早めに病院へ入院をしてもらう事を説明しており、全職員も利用者の体調に変化があれば病院へ連絡して入院などの対応を取っている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した利用者の場合、かかりつけ医や看護師からも家族に対してホームでの生活は困難である事を説明してもらい、そのまま医療機関に入院したり、老健に入所になったりと家族、病院、ホームで話し合いをしている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設から入所してくる場合や他の施設・医療機関に入所、入院となる場合は、本人の不安や負担が少しでも軽減できるように家族や関係機関に情報提供を行い、住み替え後は面会、訪問などをして様子を伺うように心がけている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>なるべく穏やかに話しかけるように心がけており、プライバシーにかかわる事などは居室やトイレなど他者が居ない所で話をするようにし、個人の記録なども全職員が理解している所定の場所に整理している</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>洋服選びが出来る方には自分で選んで頂いたり、日常生活の中で少しでも自己決定できる場面を作れるように心がけ、利用者の自己決定が危険であると思われる場合には説明をして納得してもらうように支援している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>歌や体操、レクレーションは利用者の皆さんに意見を聞いて好きな事ができるように支援し、時間に追われる介護、日常ではなく、その人のペースに合わせた日常を送れたり、お世話が出来るように支援している</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の望む洋服や格好をしてもらい、ヘアカットも本人の希望を聞いてカットしてもらっている。利用者によってはこだわりの化粧品があり、購入出来るように支援している</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好き嫌いを把握してメニューに取り入れている。また、その時期の旬な山菜、魚などを使って調理をしたり、味付けや盛り付けにも十分に注意をして、1日のメニューはホールに掲示して誰でも見られるようにしています。食材の下準備や食器拭き、片付けなども手伝っていただける方には声をかけ一緒にしている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>定時にはおやつを出し、本人の希望で牛乳やお茶、紅茶など出したり家族からの差し入れをだし、お酒も年に数回は卵酒を作って飲んで頂いています</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックリストを用意し排泄パターンを把握して、さりげなくトイレ誘導や声掛けをしている。また、病院や自宅からオムツの状態で入所されても、出来るだけ離床時間を増やし、トイレやポータブルの活用、リハビリパンツの使用が可能になるように支援しています		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴できる環境にしており職員の人数や利用者の状況に合わせて、4名から5名ずつを1日おきに入浴してもらっている。夏場などや失禁などがひどい時などはいつでもシャワーが出来るようにしている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日のリズムを整えるために、日中は出来るだけ離床を促しつつ下肢の浮腫がある方などは定期的に横になってもらうように支援し、夜間にぐっすり眠っていただけるように心がけている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできる力に合わせて、日常の作業を手伝ってもらい、花札やトランプ、歌、絵描きなど利用者の興味があるものを職員も一緒になって楽しんでいる。また、天候が良いときなどにはドライブや買い物、四季の草花の見学などに出かけている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金額を事務所の所定の場所で保管し、利用者の希望に合わせて移動販売のパンを購入したり、平戸や佐々、松浦までドライブに行った帰りに買い物などが出来るように支援している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺を散歩したり、2番館やデイのところまで行きレクレーションをしたり、天気の良い日には平戸、松浦、佐々、生月町内1周ドライブなど積極的に外出し、花見の時期などには弁当を作り花見をしながら食事を楽しんでいる		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族や親族の意向に合わせて外出、外泊できるように支援し、食堂などで外食をしたり、平戸、佐々、松浦などまでドライブに出かけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自由に家族や知人に電話したり、手紙、葉書が出せるように手伝いながら支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、本人のなじみの人達が自由に、気軽な訪問してもらっている。体操などを行っている時に訪問された方は利用者、職員と一緒に訪問された方も体操を楽しまれてる現状である		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけない事は理解して日々のケアに取り組んでおり、全体会議やユニット会議の際にも『身体』『薬』『言葉』での拘束をしないようなケアを心がけるように話し合っている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はカギをかけず、利用者の所在の確認や徘徊等の雰囲気や気配を見落とさないようにケアに取り組んでいる		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して、利用者の様子を伺う事が出来るように心がけ、普段とは違う雰囲気や行動などを見落とすことなく、不安などがある場合にはゆっくりと話をし気分転換を図れるように工夫している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者にとって注意が必要な薬、洗剤、刃物などは決められた場所に保管しており、全てを見えないようにしているのではなく、利用者や1日の時間に合わせて対応するように工夫している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	避難訓練は月に1回実施してる。ヒヤリハットを活用し、どんな些細な事でも記入するように運営者からも指示があり、危険を予測する力の向上を目標に事故防止に取り組んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当のマニュアルを職員が見えるところに掲示している。高血糖や低血糖に症状もわかるようにホームに中に掲示している。		初期対応や応急手当などの実際に訓練をしていくとより効果があり、体で覚える事が出来る
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	概ね月に1回は避難訓練をしている。定期的に消防署員の査察もあり、災害に対しては万全な状態に入れるように心がけている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	介護計画の説明の際に起こり得る危険について、運営者や職員が予測できる事は説明を行うようにしている。また、ヒヤリハットの必要性、活用を日頃の会議の中で運営者から説明がある		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や異変等に早く気づくように毎朝・夕のバイタルチェックを行い、少しでも異常が見られる場合はかかりつけ医に連絡相談し指示を受けている。利用者の変化やサインを見逃さないようにと日頃から説明を受け、早期発見に努めている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個人の処方箋を確実に目を通し、正しく服用できるように努めている。薬の変更があった場合には業務日誌や個人生活記録に記載し全職員が目を通すようにしている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘については体を動かす事、確実な水分補給、食事形態に注意する事などをきちんと理解しており、日ごろから体操への参加やおやつに乳製品を取り入れたり、確実な水分補給、入浴時の腹部マッサージなどを徹底して出来るだけ自然排便が出来るように支援している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食前のうがいと毎食後の歯磨き・うがいを行い、清潔を保持出来るように支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事摂取量のチェックを行い、日ごろから各利用者の摂取量の把握を行っているため、他の職員やかかりつけ医にも報告がスムーズに出来ている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員の予防接種や手洗いうがいの励行と利用者の手洗いうがいと病院受診など人が集まる場所に行った際は手洗いうがいはもちろんのこと、マスクの着用、車椅子、歩行器などのアルコール消毒も行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限を守り使用している。毎日、調理器具や布巾のハイターによる消毒を行っている。また、県が主催する感染症に対する研修にも参加し、感染症予防に対する情報、知識など全職員が把握できるようにしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族や利用者、職員も含めて出入りしやすい雰囲気を作るために草花を植えたり、生け花の花を置いたり、プランターを置いて工夫している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には季節の花などを飾ったり、季節感が出せる物(壁に飾る絵、窓に張る折り紙)などを利用者、職員、家族や地域の人に来てすぐに見えるところに貼り付け、生活感や季節感を取り入れて居心地良く過ごせるように心がけている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビやソファの位置を季節や利用者の状況に合わせて動かし、居室にもテレビを置くなどして一人になれる空間づくりへの工夫を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れたものやなじみの物、道具などを持ち込んでいただき、居室に置いてすこしでも落ち着いて生活できる空間づくりを心がけ、その内容も家族に説明し納得してもらっている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全居室では常時換気扇を使用しており、毎朝窓を開けて換気を行っている。それでも匂いがこもっているような時には、消臭剤などを安全な所に置き、こまめに空調管理も行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広くスペースを作っており、空間的にも安全に移動が出来るような造りになっている。床はクッションフロアを敷き、転倒、事故が起こっても重症化しないような工夫をしている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレ、浴室の入り口にはネームプレートをつけて分かりやすい工夫をしている。また、一人ひとりに「どこまで出来ますか？」などの確認を行い、どうしたら本人の力で行う事が出来るのかを様子観察、考察しながら支援している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に花を植え、季節感を楽しむ事が出来るように工夫したり、天気の良い日には玄関先にておやつを食べたりと活用している		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

天気が良いときには積極的に外出、ドライブに出かけている。また時季によってはつわを採りに行って職員と一緒に調理をして食べる。

季節に応じた絵や作品を窓に貼っています。ホーム内の職員の雰囲気が良く、地域の人から訪問しやすいと言われます。

利用者からご飯が美味しいと言われています。言葉使いには十分に注意しながらも、方言を交えて楽しく毎日を過ごしています。

毎日、歌や体操を行い体力の維持が出来ていると思います。

他の施設や医療機関から新規で入所された方の表情が徐々に明るくなって、地域の方から『あの利用者さんはよくなったね、元気になってるね』と言われる。

訪問に来てくれる保育園児が島内にある他の高齢者施設と比べても、のびのびと楽しい時間を過ごせる事が出来るといわれている。

職員同士助け合って業務をしています。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(有)みやび会 グループホームいなほ
(ユニット名)	2番館
所在地 (県・市町村名)	長崎県平戸市生月町山田免1074-1
記入者名 (管理者)	塚本 吉弘 (田淵香世子)
記入日	平成 20年 6月 17日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のニーズに応えられるように、事業所の増設を検討したり、地域の方から職員に対する評判が良いので、現状を維持できるように会議などで話している		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を会議で説明し、質を向上するために改善点があれば職員全員で話し合いをして改善に取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度行い、サービスの実際や入所申し込み者、活動の報告を行い、特にサービス向上に向けた意見があれば全体会議の中で議題として話している		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出かけて行き、介護に関する意見や情報を聞き入れている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の研修などに参加した際に講義を受けている。現状では必要とする利用者はなく、必ず家族または身内の方と相談をして利用者の権利を守れるようにしている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビや新聞の情報、県からの通達などを各会議で話し合い、虐待防止に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ前には、必ず当事業所へ出てきてもらい、雰囲気や環境を目で見て、感じてもらいながら説明を行い、疑問、質問、意見などを伺うようにして、納得の下に契約を結んでいる</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>気軽に会話できる関係作りを目指しており、利用者が自由に職員に対して意見や感情を出してもらえるようにして、ユニット会議などで意見があった事を報告し検討している</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>その都度、家族や親族の方に連絡をとり、病院受診の結果や事務所預かり残金の確認、職員の異動などを報告している</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会や電話での連絡などで細かく近況を報告し、その際に家族の意見があれば個人記録や苦情相談に記録して全職員が閲覧できるようにしている</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回のユニット会議と会社職員の全体会議を行っているほか、職員は個人の気づきノートを持っており、個人的な意見や業務の気づきなどをメモして、運営者へ毎月提出して意見をもらっている</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>全職員の勤務希望を聞き入れて勤務表を作成し、急な変更、緊急時にも勤務調整が出来る環境を整えている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職に関しては最小限に抑えるようにしており、職員の危機管理能力の向上、慣れの防止、全入所者の把握を兼ねて職員の異動を考えるようにしている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員には、介護福祉士の取得を目標にして勤務してもらうように話し、介護福祉士取得に必要な情報を提供して、全職員の取得を願っている。外部研修への参加も全体会議の時に報告して、研修や講演会に参加した職員は全体会議の時に発表している		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にあるグループホームの管理者と連絡を取り、その都度現状の活動内容の報告や交流を図っている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のプライベートな時間を大切にしてもらうように説明をしており、希望通りに休みを調整してもらっている。個人のノートを活用して職場環境づくりに取り組んでいる		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務体制など、職員の希望を聞いて働きやすい環境を作ってもらっている。朝礼時には1日の目標を発表し、目標への反省や感想をノートに書くようにしている		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	フェイスシートを活用して、本人の希望や想いを確認し、じっくりと話を聞くように心がけている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	フェイスシートを活用して、家族の希望、要望を確認し、電話での連絡や面会時にはゆっくりと話す機会を作っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容にもよるが、職員で話し合い対応できる物は状況に合わせて支援をして、職員だけで対応が困難な場合は、運営者も含めて全体会議などで話し合いをしてニーズに対応するように努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少しでも早く馴染んで頂けるように、コミュニケーションをとり、体操をしたり、歌を唄ったりと解けこみやすい雰囲気作りを心がけ、出来るだけ自宅で使っていたなじみに物を持ってきてもらうようにしている。また、初期段階では利用者に関わってきた方々に面会に来てもらい、職員と利用者のパイプ役とストレスのはけ口になってもらうように説明をして納得してもらっている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地元の昔からの習慣や風習を教えてもらっている。昔話や歌を教えてもらったり、調理の下準備や食器拭きなど、会話をしながら一緒にしています		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時などに、ドライブや買い物などに出かけたときの話をしたり、日々の生活の中で怒った事や笑った事などを報告している。また、年1回は家族交流会を開催し、利用者、家族、職員との交流の機会を作っている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	フェイスシートを作成する時に本人と家族と話を聞きだし、お互いがどのような関係だったのかを察知して、どの程度家族が協力出来るのかを全職員で確認して、状況に合わせて連絡を取るようにしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのものは持ってきてもらうように説明を行い、なじみの人には職員と利用者をつなげるパイプ役になってもらうように説明をし、事業所にとっても利用者さんにとっても必要な存在である事を理解してもらうように心がけている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホールにて利用者同士会話をしたり、起床時には利用者同士で起きるように声掛けをしてもらっている。孤立しそうな利用者がいたとしても、職員が間に入り、職員も一緒になって利用者同士が会話できる状況を作るように心がけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された利用者やその家族とは、どこかで出会った時など声を掛けて最近の様子を聞いたり、ホームの近況を話したりと継続的な付き合いを心がけている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートを活用して利用者の思いや希望、意向などを聞き記録したり、意思の伝達が難しい方は、いつのどの瞬間が落ち着いた生活、笑顔で過ごせる時間なのかを把握してユニット会議で話し合っている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	月1回のユニット会議時には、利用者の生活歴やサービスの経過などを職員間で情報交換し、全職員が共通の理解を得られるように努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方など、個人記録にまとめて日々の心身状態なども把握できるようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議に担当者が作成したフェイスシートを基に介護計画をたて、その後に家族にも介護計画を見ながら説明を行い、意見を聞いたり同意を得ている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、その都度状態に応じてユニットの職員、運営者を交えて計画を作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の行動や言動の変化など気づいた事は個別の生活記録や業務日誌、申し送りノートを活用し、情報の共有と介護計画の見直しに役立てている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を尊重して、いつでも外出や外泊が出来る環境作り、地域での行事や四季折々の草花の見学、また飲食店での食事をするなど、季節、体調、状況に応じて支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署員の定期的な査察や避難訓練の立会い、婦人会の方や地域のボランティア団体に訪問してもらい、女性利用者にお化粧をするビューティーサロンや全利用者の美容ボランティア、小中学生の職場体験やボランティアの受け入れなどを行っている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	美容ボランティアなどによるヘアカットや婦人会の訪問によるお化粧(ビューティーサロン)、漁協からの魚の差し入れ、絵本などの読み聞かせなど地域のボランティア団体を有効に活用している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、要支援者の利用者がいないため、包括を活用する事は無いが、高齢者福祉・介護に関する情報や研修・講演会の案内などメールを活用して連絡を取り合っている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する病院、ドクターの診察が受けられるように病院と連絡を取り合ったり、本人の身体状況に合った病院を紹介するなどして適切な医療を受けられるように心がけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月、定期的にかかりつけ医の診察を受け、最近の認知症による行動や薬の影響など細かい相談や報告を行い、かかりつけ医の指示の基に認知症の進行や健康の管理が出来るように心がけている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	病院の看護師には利用者の少しの変化でもすぐに相談できる環境にあり、またホームの看護師にも気軽に相談をしながら健康管理に心掛けている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、必要に応じて情報提供書を作成してホームでの今までの生活状況を説明したり、環境の変化による認知症の悪化を防止するように家族へ相談して早期に退院できるような関係を心がけている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時には、身体状況が重度化したり、24時間の医療が必要な状況など専門的な医療や治療が必要な状態になるときは早めに病院へ入院をしてもらう事を説明しており、全職員も利用者の体調に変化があれば病院へ連絡して入院などの対応を取っている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した利用者の場合、かかりつけ医や看護師からも家族に対してホームでの生活は困難である事を説明してもらい、そのまま医療機関に入院したり、老健に入所になったりと家族、病院、ホームで話し合いをしている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設から入所してくる場合や他の施設・医療機関に入所、入院となる場合は、本人の不安や負担が少しでも軽減できるように家族や関係機関に情報提供を行い、住み替え後は面会、訪問などをして様子を伺うように心がけている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>なるべく穏やかに話しかけるように心がけており、プライバシーにかかわる事などは居室やトイレなど他者が居ない所で話をするようにし、個人の記録なども全職員が理解している所定の場所に整理している</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>洋服選びが出来る方には自分で選んで頂いたり、日常生活の中で少しでも自己決定できる場面を作れるように心がけ、利用者の自己決定が危険であると思われる場合には説明をして納得してもらうように支援している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>歌や体操、レクリエーションは利用者の皆さんに意見を聞いて好きな事ができるように支援し、時間に追われる介護、日常ではなく、その人のペースに合わせた日常を送れたり、お世話が出来るように支援している</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の望む洋服や格好をしてもらい、ヘアカットも本人の希望を聞いてカットしてもらっている。利用者によってはこだわりの化粧品があり、購入出来るように支援している</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好き嫌いを把握してメニューに取り入れている。また、その時期の旬な山菜、魚などを使って調理をしたり、味付けや盛り付けにも十分に注意をして、1日のメニューはホールに掲示して誰でも見られるようにしています。食材の下準備や食器拭き、片付けなども手伝っていただける方には声をかけ一緒にしている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>定時にはおやつを出し、本人の希望で牛乳やお茶、紅茶など出したり家族からの差し入れをだし、お酒も年に数回は卵酒を作って飲んで頂いています</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックリストを用意し排泄パターンを把握して、さりげなくトイレ誘導や声掛けをしている。また、病院や自宅からオムツの状態で入所されても、出来るだけ離床時間を増やし、トイレやポータブルの活用、リハビリパンツの使用が可能になるように支援しています		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴できる環境にしており職員の人数や利用者の状況に合わせて、4名から5名ずつを1日おきに入浴してもらっている。夏場などや失禁などがひどい時などはいつでもシャワーが出来るようにしている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日のリズムを整えるために、日中は出来るだけ離床を促しつつ下肢の浮腫がある方などは定期的に横になってもらうように支援し、夜間にぐっすり眠っていただけるように心がけている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできる力に合わせて、日常の作業を手伝ってもらい、花札やトランプ、歌、絵描きなど利用者の興味があるものを職員も一緒になって楽しんでいる。また、天候が良いときなどにはドライブや買い物、四季の草花の見学などに出かけている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金額を事務所の所定の場所で保管し、利用者の希望に合わせて移動販売のパンを購入したり、平戸や佐々、松浦までドライブに行った帰りに買い物などが出来るように支援している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺を散歩したり、1番館やデイのところまで出てレクレーションをしたり、天気の良い日には平戸、松浦、佐々、生月町内1周ドライブなど積極的に外出し、花見の時期などには弁当を作り花見をしながら食事を楽しんでいる		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族や親族の意向に合わせて外出、外泊できるように支援し、食堂などで外食をしたり、平戸、佐々、松浦などまでドライブに出かけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自由に家族や知人に電話したり、手紙、葉書が出せるように手伝いながら支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、本人のなじみの人達が自由に、気軽な訪問してもらっている。体操などを行っている時に訪問された方は利用者、職員と一緒に訪問された方も体操を楽しまれてる現状である		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけない事は理解して日々のケアに取り組んでおり、全体会議やユニット会議の際にも『身体』『薬』『言葉』での拘束をしないようなケアを心がけるように話し合っている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はカギをかけず、利用者の所在の確認や徘徊等の雰囲気や気配を見落とさないようにケアに取り組んでいる		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して、利用者の様子を伺う事が出来るように心がけ、普段とは違う雰囲気や行動などを見落とすことなく、不安などがある場合にはゆっくりと話をし気分転換を図れるように工夫している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者にとって注意が必要な薬、洗剤、刃物などは決められた場所に保管しており、全てを見えないようにしているのではなく、利用者や1日の時間に合わせて対応するように工夫している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	避難訓練は月に1回実施してる。ヒヤリハットを活用し、どんな些細な事でも記入するように運営者からも指示があり、危険を予測する力の向上を目標に事故防止に取り組んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当のマニュアルを職員が見えるところに掲示している。高血糖や低血糖に症状もわかるようにホームに中に掲示している。		初期対応や応急手当などの実際に訓練をしていくとより効果があり、体で覚える事が出来る
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	概ね月に1回は避難訓練をしている。定期的に消防署員の査察もあり、災害に対しては万全な状態で入れるように心がけている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	介護計画の説明の際に起こり得る危険について、運営者や職員が予測できる事は説明を行うようにしている。また、ヒヤリハットの必要性、活用を日頃の会議の中で運営者から説明がある		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	高齢者の体調変化は初期症状が明確で無いときが多いので、一人ひとりの体調の変化や異変等に早く気づくように毎朝・夕のバイタルチェックと昼食後の検温を行い、早期発見に努めている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個人の処方箋を確実に目を通し、正しく服用できるように努めている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘については体を動かす事、確実な水分補給、食事形態に注意する事などをきちんと理解しており、日ごろから体操への参加やおやつに乳製品を取り入れたり、確実な水分補給を徹底して出来るだけ自然排便が出来る環境づくりを心がけている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食前のうがいと毎食後の歯磨き・うがいを行い、清潔を保持出来るように支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事摂取量のチェックを行い、日ごろから各利用者の摂取量の把握を行っており、食事摂取量の変化に応じて体調を伺ったり、変わった事がないか確認を行っている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員の予防接種や手洗いうがいの励行と利用者の手洗いうがいと病院受診など人が集まる場所に行った際は手洗いうがいはもちろんのこと、マスクの着用、車椅子、歩行器などのアルコール消毒も行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限を守り使用している。毎日、調理器具や布巾のハイターによる消毒を行っている。また、県が主催する感染症に対する研修にも参加し、感染症予防に対する情報、知識など全職員が把握できるようにしている		今以上に、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症を職員が感染源とならないように、ホームに持ち込まないように努力していくつもりです
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族や利用者、職員も含めて出入りしやすい雰囲気を作るために草花を植えたり、生け花の花を置いたり、プランターを置いて工夫している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には季節の花などを飾ったり、季節感が出せる物(壁に飾る絵、窓に張る折り紙)などを利用者、職員、家族や地域の人に来てすぐに見えるところに貼り付け、生活感や季節感を取り入れて居心地良く過ごせるように心がけている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビやソファの位置を季節や利用者の状況に合わせて動かし、居室にもテレビを置くなどして一人になれる空間づくりへの工夫を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れたものやなじみの物、道具などを持ち込んでいただき、居室に置いてすこしでも落ち着いて生活できる空間づくりを心がけ、その内容も家族に説明し納得してもらっている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全居室では常時換気扇を使用しており、毎朝窓を開けて換気を行っている。それでも匂いがこもっているような時には、消臭剤などを安全な所に置き、こまめに空調管理も行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広くスペースを作っており、空間的にも安全に移動が出来るような造りになっている。床はクッションフロアを敷き、転倒、事故が起こっても重症化しないような工夫をしている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレ、浴室の入り口にはネームプレートをつけており、弱視で分からない利用者には扉に飾りを貼り付けて、触って自分の居室である事が分かるように工夫をしている。		わかる力?? どのように解釈をするべきか?
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に花を植え、季節感を楽しむ事が出来るように工夫したり、天気の良い日には玄関先にておやつを食べたりと活用している		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

天気が良いときには積極的に外出、ドライブに出かけている。また時季によってはつわを採りに行って職員と一緒に調理をして食べる。

季節に応じた絵や作品を窓に貼っています。ホーム内の職員の雰囲気が良く、地域の人から訪問しやすいと言われます。

利用者からご飯が美味しいと言われています。言葉使いには十分に注意しながらも、方言を交えて楽しく毎日を過ごしています。

毎日、歌や体操を行い体力の維持が出来ていると思います。

他の施設や医療機関から新規で入所された方の表情が徐々に明るくなって、地域の方から『あの利用者さんはよくなったね、元気になってるね』と言われる。

訪問に来てくれる保育園児が島内にある他の高齢者施設と比べても、のびのびと楽しい時間を過ごせる事が出来るといわれている。